

退職

文学部着任以来、長きにわたり教育・研究ならびに大学運営にご尽力いただきました下記の先生方が2014年3月31日をもって定年を迎えられます。

退職記念講演が行われる場合は文学部校友会HPならびにFACEBOOKにてお知らせしますので、ご確認ください。

	真下 厚教授 日本文学研究学域 日本文学専攻 1988年4月着任		北村 稔教授 東洋研究学域 現代東アジア言語・文化専攻 1987年4月着任		丸山 美知代教授 国際文化学域 英米文学専攻 1987年4月着任		下川 茂教授 国際文化学域 文化芸術専攻 1990年4月着任	
	竹山 博英教授 国際文化学域 文化芸術専攻 1996年4月着任		吉越 昭久教授 地域研究学域 地理学専攻 1995年4月着任		朝尾 幸次郎教授 コミュニケーション学域 言語コミュニケーション専攻 2003年4月着任		小林 恵子教授 コミュニケーション学域 国際コミュニケーション専攻 1977年4月着任	尾田 政臣教授 心理学域 心理学専攻 1997年4月着任

同窓会開催補助金のお知らせ

昨年度より、同窓会補助を行うことになりました。文学部校友会は、同窓会活動を応援します！

文学部各専攻・プログラムの同窓会

専攻・プログラムの複数年度の卒業生が参加するもの

クラス・ゼミの同窓会

研究入門
基礎購読
基礎実験実習
演習I・II
ゼミナールI・II(テーマリサーチ)



文学部校友会では上記に該当する同窓会活動に関する経費を補助させていただきます。

■補助内容

記念誌印刷、案内郵送料、同窓会HP作成など 同窓会活動に関する経費について補助します。

申請団体	補助の根拠	補助金額
専攻・同窓会	同窓会規約、規約のない場合は専攻主任または教員の確認印。	実費支給上限50,000円
クラス・ゼミ	担当教員の確認印。確認が取れない場合は文学部校友会事務局に相談。	実費支給上限10,000円

申請方法など、詳細は立命館大学校友会ホームページ「同窓会開催補助費」のページをご覧ください。
<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/koyu/index.html>

訃報



■名譽教授 永原 誠先生(英米文学専攻)は2013年5月23日にご逝去されました。謹んで心よりご冥福をお祈りいたします。
<在職期間 1954年4月～1993年3月>



■名譽教授 寺崎 峻輔先生(哲学専攻)は2013年6月11日にご逝去されました。謹んで心よりご冥福をお祈りいたします。
<在職期間 1974年4月～2000年3月>

文学部校友会に入会しませんか？

文学部校友会は、2007年度、文学部創設80周年を期に設立され、設立年度にご賛同いただいた会員の皆様が約1,000名、2007年度以降の卒業生の会員の皆様が約6,500名、現在、約7,500名の会員様にご支援いただいております。

校友会入会については、終身会費として1万円の会費の納入をお願いすることとなります。文学部校友会の趣旨をご理解のうえ、ぜひ文学部校友会へご入会いただき、より幅広い交流と、立命館大学文学部・文学研究科の発展にご協力いただきますようお願い申し上げます。

【文学部校友会入会手続きについて】

2006年度以前のご卒業の方が、新規に入会をご希望される場合は、お手数ですが、下記までご連絡をいただきますようお願い申し上げます。
立命館大学 文学部校友会 電話：075-465-8187(文学部事務室内)
mail:ltalumni@st.ritsumei.ac.jp

伝言板

■平成25年度 哲学同窓会 定期総会・懇親会のご案内

【日 時】2013年10月5日(土) 講演会 16時～17時(受付15時30分)
加國 尚志教授「木村彰吾先生の思い出」
総会 17時～17時40分
懇親会 18時～19時30分

【会 場】立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館2階
【会 費】5,000円(学生及び院生は2,000円)

■2013年度 地理学同窓会 総会・懇親会のご案内

【日 時】2013年11月30日(土) 総会 18時～(受付17時30分)
懇親会 18時30分～

【会 場】京都タワーホテル(JR京都駅前)
【会 費】6,000円(要事前申込)
なお、2013年3月ご卒業の新入会員は4,000円

■文学研究科関連 講演情報

「ヴァンキュラー文化としてのStephen Foster 歌曲」
【日 時】2013年12月7日(土)13時～(会場12時30分)
【会 場】立命館大学衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム
【問合せ】立命館大学国際言語文化研究所 Tel:075-465-8164

秋の
イベント情報

2013年度 立命館大学文学部校友会
総会・講演会・懇親会

11月24日(日) 講演会 講師
四代目 市川猿之助氏

<わしくはP.2まで>

Vol.5 2013

ご挨拶



文学部校友の皆さま、日頃より文学部校友会へご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
校友会会報「LETTERS」第5号をここにお届けいたします。

さて、多くの卒業生にとりまして、大学時代は特別な想いをもって振り返るものではないでしょうか。私は、卒業いたしましたから長い年月が経っておりますが、文学部での学び、課外活動の能楽部や茶道部、児童福祉研究会の活動、友人たちとの交流など、今も鮮明な思い出となって蘇ってまいります。人生楽あれば苦ありと申しますが、私はむしろ「苦あれば楽しみあり」だと思います。折にふれ、大学時代の授業やクラブの活動、そして友人たちが今の自分にとって活力の源になっていることを実感いたします。

今回の「LETTERS」には、現在さまざまな分野で活躍されておられる校友諸氏から素晴らしい「今」の報告をたくさん寄せていただきました。この他にも多数の文学部校友の皆さんが、いろいろな場所で生き生きと活

躍をされておられることと存じます。

現在の学生諸君は、世界的な経済情勢の低迷のなか、困難な就職環境に直面していますが、私は彼らにこのようにエールを送りたいと思っています。就職はゴールではない、その先にある社会人としての長い人生をどれだけ豊かに幸せに過ごすかが大事なのだ、そのためには、先輩方を見習って「よく学び、よく遊べ」と。そうした意味で、この「LETTERS」は、文学部校友の皆さまはもとより、学生諸君にも「読んで良かった」と思って頂けることを願って編集いたしました。

本年は、文学部校友会設立後6年を迎え、総会の年となっています。校友の皆さまに喜んでいただけるような文学部らしい企画を練ってお待ちしておりますので、どうぞお友達とお誘いあわせ下さって一人でも多くの皆さまがお越しいたいただき、元気なお顔をみせていただくことを心からお待ちいたしております。

(1955年 哲学専攻 卒業・長岡京天満宮 名誉宮司)

CONTENTS

- 01 ご挨拶
立命館大学文学部長 桂島 宣弘
LETTERSクイズ
- 02 特集① 2013年度文学部校友会活動案内
総会・講演会案内
- 03 文たびツアー開催報告
2012年度立命館大学文学部
校友会決算書
- 04 2012年文学部ゼミナール大会
校友会会長賞
専攻紹介 ピックアップ
地域研究学域 京都学専攻
田中 聡教授
- 05 特集② 文学部校友の「いま」
- 07 Information



ご挨拶

立命館大学文学部長 桂島 宣弘

文学部校友の皆様には、日頃から文学部へのご支援・ご協力を賜り心から感謝申し上げます。おかげをもちまして、文学部は創立86周年を迎え、教育・研究面でも内外から高い評価を受けております。

さて、文学部では、2012年に学部改革を実施しました。学生諸君が多角的視点から人文学を学べるように、幾つかの専攻を組み合わせた学域を構成し、入試も学域単位で実施し、専攻には二回生から所属するカリキュラムとしました。本年は改革二年目を迎え、新カリキュラムは順調に推進されており、21世紀の新たな人文学的知が発信できる体制が整えられたものと確信しています。また、来る2014年度からは、大学院改革を実施する計画で、現在その準備が行われています。この改革によって、大学院は人文学専攻・行動文化情報学専攻の二専攻から構成されることとなり、とりわけ行動文化情報学専攻では伝統的人文学の蓄積に最新のデジタル人文学や自然科学・社会科学等を融合させてのプロジェクト型研究が行われるカリキュラムとなる予定です。また、あらたに現代東アジア言語・文化学専修、文化動態学専修(総合人文学専修から改称)、英語圏文化専

修、考古学・文化遺産専修、文化情報学専修が設置されることとなり、これによってさらに幅の広い人文学研究が行われる体制となります。

国際化に関しましては、2011年に文部科学省から選定された「キャンパスアジア」事業が本格的に始動中です。日中韓の学生がキャンパス移動して学ぶシステムが構築され、現在その第二学期として立命館大学に日中韓の学生が集って、言語と人文学の学修が展開されています。日中韓の学生がシェアハウスで共同生活を送りながら学び合うシステムにもなっており、新しい国際教育のモデルとして多くのマスコミからも注目を集めています。このほか、本年度からは学部独自の共同学位プログラム(DUDP)を、カナダ・アルバータ大学との間で開始し、英語圏の国際教育にも注力しております。

このような文学部の発展も、校友の皆様方の社会での活躍、および文学部への厚いご支援の賜物と思っております。この場をお借りしてお礼申し上げるとともに、今後も変わらぬご支援のほどお願い申し上げます。



川口総長がキャンパスアジア日中韓の学生のシェアハウスを訪問



文学研究科 文化情報学専修企画

LETTERS クイズ

立命館大学 衣笠キャンパス中央広場は衣笠球場の跡地です。同球場を本拠地としていた球団の後身球団は？

正解者の中から抽選で10名様に文学部校友会グッズをプレゼントします。

応募方法 クイズの答えとお名前・ご住所・ご感想をご記入の上
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学文学部校友会事務局 までお送り下さい。
発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

応募締切 2013年10月24日(木) 消印有効

第4号のこたえ

立命館創始者
中川 小十郎さんは
2番でした。



1869年西園寺公望が私塾「立命館」を創始し、1900年文部大臣時代の西園寺の秘書であった中川小十郎が、意志を引き継ぎ立命館大学の前身となる「私立京都法政学校」を設立しました。

校友会グッズ当選者 桂田さま(石川県)、谷本さま(広島県)、谷沢さま(新潟市)、河原さま(徳島県)、嶋本さま(京丹後市)、原田さま(京都市)、水戸さま(岐阜県)、山本さま(岐阜県)、中川さま(京都市)
LETTERSクイズへのたくさんのご応募ありがとうございました。

特集① 2013年度文学部校友会 活動案内

2013年度 文学部校友会

日時:11月24日(日) 13:00受付
会場:リーガロイヤルホテル 京都

企画1 総会・講演会 13:30~15:20

場所 リーガロイヤルホテル京都 2F 紅葉の間

総会 13:30~14:10

講演会 14:20~15:20

途中入場をお断りする事がございます。

企画2 懇親会 15:50~17:50

世代を超えて、同じ文学部同士
思い出に華を咲かせませんか？

場所 リーガロイヤルホテル京都 2F 松の間
着席・円卓形式

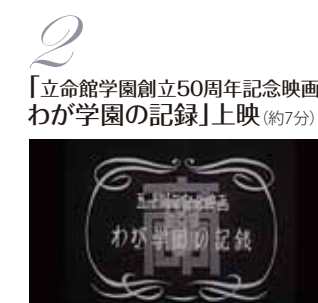
学生企画ゲスト

立命館大学メンネルコール

懐かしい
あの時を！



※写真は1987年度版(左)、2012年度版(右)



「立命館学園創立50周年記念映画 わが学園の記録」上映(約7分)

参加対象

定員300名(先着順)

文学部校友会会員 ※文学部卒業生

※立命館校友と文学部校友は異なりますのでご注意ください。
詳細は、会報P.7「文学部校友会に入会しませんか？」をご覧ください。

参加費

文学部校友会会員 ￥3,000

非会員(入会いただいてない方) ￥5,000

お申込受付期間

9月25日(水)~10月16日(水) 必着

お申込方法

校友会会報Vol.5 折込ハガキで
お申し込み下さい。 ※定員に達次第受付を終了いたします。
★HP・FACEBOOKにて受付状況お伝えしますので、ご覧下さい。

お問い合わせ

文学部校友会事務局 TEL. 075-465-8187
FAX. 075-465-8188

月~金 9:00~17:30(但し、土日祝を除く)

お申込の流れ

会場の都合により人数制限を設けております。誠に恐縮ですが、ご応募多数の場合、文学部校友会会員を優先、先着順とさせていただきますのでご了承ください。11月初旬に事務局よりご案内を送らせて頂きます。何かご不明な点がございましたら、お問い合わせください。

クラス・ゼミ同窓会

懇親会後
利用して
みませんか？

活動補助金制度の利用で
1クラスあたり最大1万円
補助させていただきます！

補助を
ご希望の方

詳細は、会報P.7「同窓会開催補助金のお知らせ」をお読みになった後
折込ハガキにてお申込ください。



校友会初企画、文たびツアー開催報告

2012年12月9日(日)校友会初企画となる、文たびツアーが開催されました。
今回は、学生時代を思い出し、修学旅行気分で楽しめる「京都再発見」をテーマとし、2ツアーを設定。
文学部真下厚教授・文学部の学生ガイドによる解説のもと個人観光では体験できない場所に訪れ、
京文化の魅力に触れ、新しい京都の発見となった事と思います。



文学部真下先生と訪ねる一京の祭礼の寺社ー

神泉苑→上賀茂神社→山住神社→山ばな平八茶屋(昼食)→廬山寺(御土居)→八坂神社→祇園閣→東寺(五重塔初層内部・観智院)

真下先生と校友会スタッフ、8名の校友の方と祇園祭などにゆかりのある寺社を巡りました。初めて訪れた場所は勿論、訪れたことのある寺社も先生のお話によって改めて深く知る事ばかり。
京都について違った視点で学ぶ一日となりました。



京の文化・おもてなし体験

香老舗 薫玉堂→富田屋 町家でくらしの体験→花見小路 花郷(昼食)→花見小路散策→建仁寺 写経体験

学生ガイド協会所属で文学部京都学プログラム学生の北田さん(当時)と校友会スタッフ、15名の文学部校友の皆さんと共に京都の文化や習慣に触れ、舞妓さんの芸を見ながら頂いた京懐石など、学生時代にはできなかった大人の京都を体験。京都の芸・食を堪能した一日となりました。



2012年度立命館大学文学部校友会決算書

(会計期間: 2012年6月1日～2013年5月31日)

項 目		2012年度 予算額(円)	2012年度 決算額(円)	備 考
収入の部	前年度繰越金	40,216,742	40,216,742	
	会費(卒業生・教職員)	100,000	180,000	卒業生(18名)
	会費(在校生)	11,000,000	12,060,000	文学部校友会会費2012年度
	雑収入	10,000	205,154	普通預金利息、ゆうちょ受取利子等、文たびツアー
	合計	51,326,742	52,661,896	
支出の部	会報発行	1,500,000	821,440	印刷費・送料
	シンポジウム等印刷費	400,000	0	文学部開催シンポ等への参加案内など
	入会記念品	2,700,000	2,455,756	2012年卒業記念品、会員証作成
	ホームページ運営	500,000	255,600	委託費
	学生・大学院生支援	250,000	10,000	文学部ゼミナール大会校友会会長賞
	校友大会派遣	50,000	60,060	校友大会への会長派遣交通費
	2012年度企画・懇親会関連	1,000,000	629,889	2012年度企画・懇親会関連
	運営関係	600,000	81,361	人件費・通信費・会議渉外費等
	専攻・ゼミ同窓会活動補助金	1,000,000	112,794	哲学同窓会、英米文学同窓会
	文学部創立90周年記念事業積立金	1,000,000	1,000,000	
	支出予備費	42,326,742	47,234,996	次年度繰越金
	合計	51,326,742	52,661,896	

2012年度 卒業記念品

多色ボールペンと
シャープペンシルの
多機能ペン



校友会資産残高(2013年5月31日現在)

京都銀行	47,137,283
ゆうちょ銀行	90,016
現金	7,697
次年度繰越金	47,234,996
文学部創立90周年 記念事業積立金	1,000,000

2012年文学部ゼミナール大会 校友会会長賞

日本文学専攻2回生(受賞当時) ^{う がき} 宇垣 ^{たく ろう} 琢朗 さん



私が文学部ゼミナール大会に参加しようと決意した理由は、せっかく文学部に属し、説話文学研究会に入っているのだから、在学中に何かに挑戦したいという小さな考えからでした。テーマがなかなか決まらない時、偶然目について説話文学研究会で発表した天狗の話が調べてみるとかなり深く、また当時の社会状況にも関連していてとても面白く、この説話にしようと決めたのです。テーマを決めてからも、やりたいことが多く主題がずれてしまったりしましたが、先輩のアドバイスもあり、完成することができました。本番の日は、予選も本選も、すごく緊張していた為、サ

ークルで使う滑舌訓練や声を出すための発声練習などを空き時間で行い、緊張をほぐしていました。予選の途中は緊張で嚙んだりしていたので、終わった後はあんまりできた感じはしなかったです。そして賞をとったとき、実感がわかなかったのですが、しばらくしてああ頑張ってたかったという達成感と自分が評価されたことの誇らしさでいっぱいになりました。自分で挑戦してみて、それを評価してくれるという事や、大勢の前で発表するという経験もでき、やはりゼミナール大会に参加してよかったと思っています。

専攻紹介 ピックアップ

地域研究学域 京都学専攻 ^{た なか} 田中 ^{さとし} 聡 教授

2009年開設の京都学プログラムは、2012年度より地域研究学域京都学専攻として新たに出発しました。京都をフィールドに、地域に根ざし専門分野を越えた研究を進めるべく、2013年度には主任の瀧本和成先生(日本近現代文学)を中心に、木立雅朗(歴史考古学)、田中聡(日本古代史・史学史・京都資料論)、河角龍典(歴史地理学)、加藤政洋(都市論)、桃崎有一郎(日本中世史)、須藤圭(中古文学)の諸先生が専任スタッフを務めています。去る6月には立命館土曜講座の企画を担当し、「京都に学ぶー立命館京都学の挑戦」をテーマに、「京都学」が直面している課題とその可能性について専門分野から問題提起しました。

また今年度の新たな動きとして、「地域アドバイザー ボランティア制度」の発足が挙げられます。2006年の「京都歴史回廊プログラム」以来、

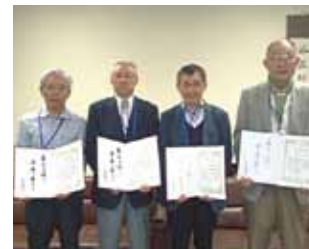
本専攻では学部学生と社会人受講生がゼミナール形式の授業で共に学びあう取り組みを重ねてきました。その過程で培われた地域社会との多様な教育・研究上の連携を生かし、地域に根ざす実践的な教学をさらに発展させるため、所定の講座を受講し終えた元受講生のなかから丸野保雄・細田茂樹・櫻井昇・中嶋悌一の4氏を「地域アドバイザー ボランティア」として認定し、専門的知見や豊富な経験を活かして専攻学生のフィールドワークや文献調査への助言や刺激を与えていただくこととなりました。7月からは京都学・地域観光学共同研究室にて定期的に相談の時間を設け、既に貴重な助言や情報をいただいている学生もあります。この他に例をみないユニークな制度を、今後も活用して行きたいと思います。



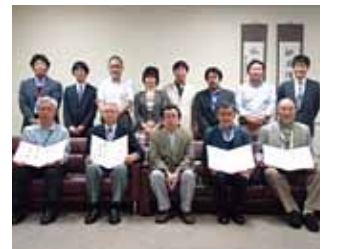
顔師の技をみる



友禅図案のデジタル・アーカイブ作業



地域アドバイザー ボランティアの皆さん



地域アドバイザー ボランティア認定証交付式



文学部校友の「いま」①

岡田 則男さん

おかだ のりお

英米文学専攻
1971年卒業
英語ニュースライター

日本のニュースを英語で書く

卒業から40年以上が過ぎ、会社も定年退職し、昨年から前期高齢者の仲間入りをしました。世間では「第二の人生」なんて言いますが、私は、これまでの新聞記者の経験も生かしながら、ある種の職人根性丸出しで、英語のニュースライターという仕事をさせていただいています。月の半分以上はNHK放送センターでテレビの2カ国語（英語）ニュースや国際放送（NHKワールド）のための原稿作成です。政治、経済から犯罪、宇宙、医療、貧困・格差、教育、伝統芸能、それにスポーツではプロ野球、大相撲からゴルフ、競馬まで、気がつけばあらゆる分野に

わたっています。ひとつ気がついたことがあります。それは、英語の報道記事は多くが、「もの」ではなく人間を主語にした文章であり、分野ごとに専門用語をちりばめるのではなく、日常の言葉で表現するということです。日本語でも、文字通り平易な言葉をたくさん使って報道文を作れるのではないかと考えています。その意味では、日本のニュースを英語で書くという作業は、少なくとも私にとっては、日本語の文章を明快に、メリハリをつけて書くためのよい勉強にもなっているように思われます。



文学部校友の「いま」②

橋本 佳奈さん
(宮嶋 佳奈)

はしもと かな

人文総合科学インスティテュート
人間と表現領域
2001年卒業

イラストで世界を切り拓く

私は文学部、人文総合科学インスティテュート「人間と表現」領域を卒業しました。大学で所属していた美術研究部の活動で色鉛筆画を展示するうちに、子供の頃から好きだった絵本の絵やイラストレーションを描く仕事に就きたいという想いが募り、卒業後は童画作家を目指して活動を始めました。

大学を卒業してすぐの私の絵はとてもプロとは程遠い仕上がりがでしたが、「自分に正直に生きる」ことを大切にして、アルバイトなどしながら心に湧いてくる世界を色鉛筆で描いていきました。植物園や動物園にスケッチに通ったり、デッサン教室に通う努力を続けました。生きていく道を模索する中、視野を広げる為、在学中から憧れていたフランスへ5ヵ月間の語学留学をしました。留学を通して異文化に触れ、精神的に豊かになったことは絵を描く上でとてもプラスになりました。

2005年、イルフ童画館主催の武井武雄記念日本童画大賞で最優秀賞をいただきました。その

後、「橋本佳奈の童画の世界」というサイトを作成し、東京で個展を開くようになって以降、CDジャケットやカレンダー、機関誌の表紙などイラストのお仕事の依頼が来るようになりました。

現在は2歳の子供の子育てが中心の生活ですが、画家として絵のクオリティをもっともっと上げていき、これからも夢に向かって努力を続けていくつもりです。絵本作家になることもひとつの目標です。



「橋本佳奈の童画の世界」 <http://www.kana-yumeiro.com/>
Eテレの番組「おかあさんといっしょ」の歌クリップなど幅広く活躍



文学部校友の「いま」③

南 健一さん

みなみ けんいち

東洋史学専攻
2012年卒業
NTTデータ関西 勤務

大学での日々は自分の大切な基盤

大学を卒業して1年が経ちました。現在は社会人2年目になり、2年目なりの不安や悩みを感じながら日々生活しています。最近、時間が経つのが早く感じ、「このままでいいのか？何かを変えなくては？」と考えるようになりました。というのも会社を設立し2年目になる先輩、つまり社長になっている人がいたり、自分の夢を追い求め1年で会社を辞め、フランスでパティシエの勉強をしている先輩が周りにいたりするからです。

正直、自分にはそのような明確な夢や野望はありません。自分は、システムエンジニアとして日々壁にぶつかっています。そんな時、少し昔を思い出します。大学生の頃、オリター活動（新入生支援活動）に3年間関わっていました。その中

で、忘れられない言葉があります。「できるか。できないかではなく、するか。しないか!」つまり、「能力や時間がないからではなく、必要か必要でないかで決めなさい」ということです。一番大切にしていって、自分の考えを変えた言葉です。その言葉を聞いて以来、自分のスタンスは「まずやってみる」に変わりました。

もし、この言葉に出会っていなかったら、今の自分はいないですし、現状にすぐ満足してしまう人間になっていたと思います。

考えてみると、そのような言葉やいろんな人に出会えた大学での日々は自分の大切な基盤になっています。そして、今は自分のやりたいことが見えてきました。それに向け、まずやってみようと思います。



文学部校友の「いま」④

飯野 真理子さん

いの まりこ

人文総合科学インスティテュート
文化と社会
2000年卒業
NHK国際放送局 勤務

今何を日本から世界に伝えるべきか

中東地域を研究していた私は、在学中にはチュニジア、卒業後はシリアに留学しました。専攻である人類学をご指導いただいた渡辺公三先生、そして中東のトルコを中心に研究されている江川ひかり先生には、特にお世話になりました。現在、18言語で海外向けに放送しているNHKワールド・ラジオ日本で、中東向けのアラビア語放送を担当していますが、大学での学びは、大事な下地になっています。二人の恩師には、フィールドに飛び込み、対象を“見る視点”を教わりました。知らない地域に行き、知らない人たちに出会って、そこで何を感じ、何を切り取るのか、日々考え、仕事をしています。

一方最近では、“見られる視点”を意識しています。私の担当する国際放送は、日本から世界に向けてのメッセージであり、私たちは世界にどう見られているのか、今何を日本から世界に伝えるべきかを考え、番組制作に励んでいます。そうした中、世界中のリスナーから届く感

想は大きな励みです。東日本大震災の直後には、およそ50カ国から5000通を超える応援メッセージが、ラジオ日本に届きました。日本と中東、ひいては世界がつながっていることを強く意識しながら、放送に携わる日々となりました。

5月には独立から2年の南スーダンを取材しました。20年以上にわたる内戦で荒廃した地で、メディアを通じ、国づくりに貢献しようというジャーナリストたちに会いました。国民の多くが学校に通えず、識字率が27%という中、一番有効な情報伝達手段はラジオです。国民に少しでも役立つ情報を届けようと休みなく働く彼らの情熱に、仕事を始めた頃の初心を思い出しました。

異文化を受け止める広い視野と、国境を越えて人々に届く言葉、それを模索し始めたのが大学時代でした。南スーダンで、人々と一緒に笑えた時、私はここに至るすべての学びに感謝しました。そしてその学びを、これからも続けていきたいと思っています。

